



## トピックス

郡山市野鳥の森学習館  
自主事業「野鳥講座」

## 「神の鳥ライチョウに学ぶ」

講師 那須どうぶつ王国  
荒川 友紀さん

2023年12月2日(土)午後1時30分より3時まで、郡山市大安場史跡公園で、第3回野鳥講座が開催されました。今回は、那須どうぶつ王国飼育員の荒川友紀さんを講師にお招きし、ライチョウの繁殖に成功し、ヒナを野生復帰させた経験についてたっぷりと語っていただきました。

また、講演の後半には、ライチョウへの理解を深めるためのゲームも行われ、皆さん楽しみながら参加なさっていました。

### 〈講師プロフィール〉

荒川さんはいわき市ご出身で、小学校1年生の時に犬を飼ったことをきっかけに、動物への興味がわき、将来は動物の飼育に関わりたくと決めたそうです。また、大学時代はカラスの行動解析の研究をされたそうです。講演は明瞭な言葉ではきはきと進められました。



### 〈ライチョウの特性〉

盲腸はハト5mm、ヒト5mmの長さのところ、ライチョウでは30cmと発達しており、ここに生きるための重要な秘密がある。糞は盲腸糞と小腸糞に別れ、ヒナは母親の盲腸糞を食べることで、植物のセルロースなどを分解できる細菌をもらい体内に引き継ぐ。それは自分の持つ酵素では分解できない食べものを腸内細菌の力を借りることで消化していく。この発見はライチョウを生息地の外側で保全する域外保全を行う上で大きな力となった。

### 〈ライチョウ保護増殖事業への関わり〉

就職と同時にライチョウの繁殖事業に関わった。

ライチョウは2012年には絶滅危惧I B類(EN)に指定され、同年、ライチョウ保護増殖事業計画が策定された(文部科学省・農林水産省・環境省)。「第一期ライチョウ保護増殖事業実施計画(2014年環境省)」では、保全施策について、生息域内保全の取組に加え、生息域外保全も重要な取組の一環として位置づけられ、飼育繁殖技術の確立、繁殖個体の適切な方法による再導入等(自然に帰す)が検討され、那須どうぶつ王国でも対応することになった。

2021年に中央アルプスより、ゲージ保護したライチョウの家族(メスとヒナ6羽)を動物園で受入れ、季節ごとの飼料には細心の注意を払い、高山植物を長野県からの供給も受け世話をした。

飼育した経験を活かし、翌年(2022年)春には、他の動物園よりライチョウを迎え、5~6月には繁殖に成功した。その後はヒナの成長のために帰宅後もライブカメラの映像をスマホでチェックし、急変の兆しがあれば早朝でも、休日でも駆けつけた。しかし、生後1か月までのヒナは体調変化に気づくことが難しく、1時間後に観察に行くと死んでいたということも稀ではなかった。それでも動物園での前期野生順化を終え、8月には3家族ヒナ19羽が故郷での後期野生順化を目的に飛び立ち、やがて放鳥に至った。その年の秋の追跡調査では9羽の無事が確認された。

ヒナの飼育に関わり感じることは、母鳥によるヒナへの採食刺激が大切で、ヒナたちは母鳥から生きるための方法を学んでいくことの重要性を感じた。2023年春には、野生復帰させたライチョウがつかいを形成し親になり、新たなヒナを連れてくるとの嬉しい情報が入った。

### 〈最後に〉

人の手による繁殖については、次世代、さらに、次の世代と命をつないで、初めて成功と言える事業である。今後、中央アルプスのライチョウを100羽程度増やすとの目標に向かって活動している。

最後に私たちにできることとして①ライチョウを知る。②身近な自然環境を守る(ゴミを捨てない・高山植物を守る・登山道から外れない・野生動物にエサを与えない)③ライチョウ保護のボランティア活動があるのでよろしくお願ひしたい。

参考まで、ライチョウに出会える場所として立山室堂や乗鞍がある。悪天候の時には出会いやすい。観察のコツは日の出より2~3時間、日の入り前2~3時間なのでぜひ出会ってほしい。

(記録 広報部)